

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

## 5-HT<sub>2</sub>ブロッカー

日本薬局方 サルポグレラート塩酸塩錠

# サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」 サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」

## SARPOGRELATE HYDROCHLORIDE

剤形	錠50mg : フィルムコーティング錠 錠100mg : 割線入りフィルムコーティング錠
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	錠50mg : 1錠中日局サルポグレラート塩酸塩50mg含有 錠100mg : 1錠中日局サルポグレラート塩酸塩100mg含有
一般名	和名 : サルポグレラート塩酸塩 洋名 : Sarpogrelate Hydrochloride
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日 : 2009年 7月13日 薬価基準収載年月日 : 2009年11月13日 発売年月日 : 2009年11月13日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元 : 沢井製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	沢井製薬株式会社 医薬品情報センター TEL : 0120-381-999、FAX : 06-6394-7355 医療関係者向けホームページ : <a href="http://med.sawai.co.jp">http://med.sawai.co.jp</a>

本IFは2016年6月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

# IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

## 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### [IFの様式]

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### [IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」(以下、「IF記載要領2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

#### [IFの発行]

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### 3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	25
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	25
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	25
II. 名称に関する項目	2	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	25
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	25
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	25
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	25
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	25
5. 化学名(命名法)	3	8. 副作用	26
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	9. 高齢者への投与	27
7. CAS登録番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	27
III. 有効成分に関する項目	4	11. 小児等への投与	27
1. 物理化学的性質	4	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	27
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	13. 過量投与	28
3. 有効成分の確認試験法	5	14. 適用上の注意	28
4. 有効成分の定量法	5	15. その他の注意	28
IV. 製剤に関する項目	6	16. その他	28
1. 剤形	6	IX. 非臨床試験に関する項目	29
2. 製剤の組成	6	1. 薬理試験	29
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	7	2. 毒性試験	29
4. 製剤の各種条件下における安定性	7	X. 管理的事項に関する項目	30
5. 調製法及び溶解後の安定性	8	1. 規制区分	30
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	8	2. 有効期間又は使用期限	30
7. 溶出性	9	3. 貯法・保存条件	30
8. 生物学的試験法	13	4. 薬剤取扱い上の注意点	30
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	13	5. 承認条件等	30
10. 製剤中の有効成分の定量法	13	6. 包装	30
11. 力価	14	7. 容器の材質	30
12. 混入する可能性のある夾雑物	14	8. 同一成分・同効薬	31
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	14	9. 国際誕生年月日	31
14. その他	14	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	31
V. 治療に関する項目	15	11. 薬価基準収載年月日	31
1. 効能又は効果	15	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	31
2. 用法及び用量	15	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	31
3. 臨床成績	15	14. 再審査期間	31
VI. 薬効薬理に関する項目	17	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	31
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	17	16. 各種コード	32
2. 薬理作用	17	17. 保険給付上の注意	32
VII. 薬物動態に関する項目	18	XI. 文献	33
1. 血中濃度の推移・測定法	18	1. 引用文献	33
2. 薬物速度論的パラメータ	22	2. その他の参考文献	33
3. 吸収	23	XII. 参考資料	34
4. 分布	23	1. 主な外国での発売状況	34
5. 代謝	23	2. 海外における臨床支援情報	34
6. 排泄	24	XIII. 備考	34
7. トランスポーターに関する情報	24	その他の関連資料	34
8. 透析等による除去率	24		

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

サルポグレラート塩酸塩錠50mg/錠100mg「サワイ」は、日局サルポグレラート塩酸塩を含有する5-HT<sub>2</sub>ブロッカーである。

本剤は、5-HT<sub>2</sub>レセプターに対する選択的拮抗剤で、慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛および冷感等の虚血性諸症状の改善に用いられる。

本剤は、後発医薬品として下記通知に基づき、製造方法並びに規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、承認を得て上市に至った。

承認申請に際し準拠した通知名	平成17年3月31日 薬食発第0331015号
承認	2009年7月
上市	2009年11月

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

1) 血小板及び血管平滑筋の5-HT<sub>2</sub>受容体に対する特異的な拮抗作用により、血小板凝集抑制作用及び血管収縮抑制作用を示して末梢循環障害を改善する。

2) 重大な副作用として、脳出血、消化管出血、血小板減少、肝機能障害、黄疸、無顆粒球症が報告されている(頻度不明)。

また、その他の副作用として、発疹、発赤、肝機能障害(ビリルビン、AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇等)、出血(鼻出血、皮下出血等)、嘔気、胸やけ、心悸亢進、頭痛、蛋白尿、尿潜血、貧血、血清中性脂肪の上昇、血清コレステロールの上昇等が報告されている(頻度不明)。

## II. 名称に関する項目

### II. 名称に関する項目

#### 1. 販売名 .....

##### 1) 和名

サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」

サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」

##### 2) 洋名

SARPOGRELATE HYDROCHLORIDE

##### 3) 名称の由来

通知「平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号」に基づき命名した。

#### 2. 一般名 .....

##### 1) 和名(命名法)

サルポグレラート塩酸塩(JAN)

##### 2) 洋名(命名法)

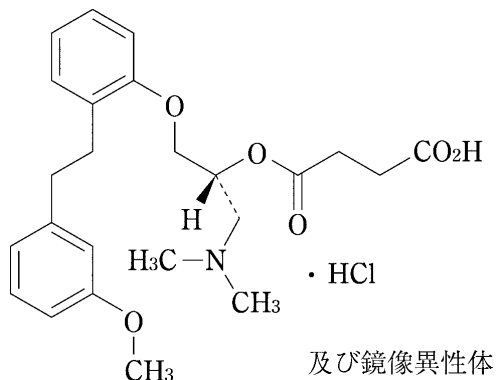
Sarpogrelate Hydrochloride (JAN)

Sarpogrelate (INN)

##### 3) ステム

—grel— : 血小板凝集阻害薬

#### 3. 構造式又は示性式 .....



#### 4. 分子式及び分子量 .....

分子式 :  $C_{24}H_{31}NO_6 \cdot HCl$

分子量 : 465.97

5. 化学名(命名法) .....  
(2*RS*)-1-Dimethylamino-3-{2-[2-(3-methoxyphenyl)ethyl]phenoxy}propan-2-yl  
hydrogen succinate monohydrochloride(IUPAC)
6. 慣用名、別名、略号、記号番号 .....  
別名：塩酸サルポグレラート
7. CAS登録番号 .....  
135159-51-2[Sarpogrelate Hydrochloride]  
125926-17-2[Sarpogrelate]

---

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

---

1. 物理化学的性質

1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末である。

結晶多形が認められる。

2) 溶解性

水又はエタノール(99.5)に溶けにくい。0.01mol/L塩酸試液に溶ける。

溶解度(37°C)<sup>1)</sup> : pH1.2 : 3.48mg/mL、pH4.0 : 51.1mg/mL、pH6.8 : 60.7mg/mL、水 : 50.8mg/mL

3) 吸湿性

水分 : 0.5%以下(0.1g、電量滴定法)

4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

該当資料なし

5) 酸塩基解離定数

$pK_{a1} = 3.89$ (20°C、カルボキシル基、滴定法)<sup>1)</sup>

$pK_{a2} = 8.42$ (20°C、第三アミノ基、滴定法)<sup>1)</sup>

6) 分配係数

49(クロロホルム系)<sup>2)</sup>

7) その他の主な示性値

水溶液(1→100)は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

水<sup>1)</sup> : 1mg/mL濃度のとき、40°C、24時間で約7%分解する。

液性(pH)<sup>1)</sup> : 酸性領域では安定で、アルカリ性になるにつれ不安定である。

1mg/mL濃度のとき、pH2.0、37°Cで2時間は安定である。

pH4.0、37°C、2時間で約0.5%分解する。

pH6.0、37°C、2時間で約4%分解する。

pH8.0、37°C、2時間で70%以上分解する。

光<sup>1)</sup> : 固体状態で安定である。



3. 有効成分の確認試験法 .....

日局「サルポグレラート塩酸塩」の確認試験に準ずる。

- 1) 紫外可視吸光度測定法
- 2) 赤外吸収スペクトル測定法
- 3) 塩化物の定性反応

4. 有効成分の定量法 .....







日局「サルポグレラート塩酸塩」の定量法に準ずる。(液体クロマトグラフィー)

IV. 製剤に関する項目

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

1) 剤形の区別、外観及び性状

品名	剤形	表 (直径mm)	裏 (重量mg)	側面 (厚さmm)	性状
サルポグレラート 塩酸塩錠50mg 「サワイ」	フィルムコー ティング錠	 7.6	 約145	 3.6	白色
サルポグレラート 塩酸塩錠100mg 「サワイ」	割線入りフィル ムコーティング 錠	 8.6	 約227	 4.2	白色

2) 製剤の物性

製剤均一性：日局サルポグレラート塩酸塩錠 製剤均一性の項により含量均一性試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日局サルポグレラート塩酸塩錠 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。  
(水、30分：80%以上)

3) 識別コード

- サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」：SW サルポグレラート 50
- サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」：SW サルポグレラート 100

4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

1) 有効成分(活性成分)の含量

- サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」  
1錠中に日局サルポグレラート塩酸塩50mgを含有する。
- サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」  
1錠中に日局サルポグレラート塩酸塩100mgを含有する。

2) 添加物

- サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」  
添加物として、カルナウバロウ、クエン酸、酸化チタン、ステアリン酸Ca、タルク、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、D-マンニトールを含有する。

## ●サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」

添加物として、カルナウバロウ、クエン酸、酸化チタン、ステアリン酸Ca、タルク、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、D-マンニトールを含有する。

## 3) その他

該当資料なし

## 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

## 4. 製剤の各種条件下における安定性

●サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」<sup>3)</sup>

## 1) PTP包装品の安定性(加速試験)

サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、定量試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	白色のフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
純度試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	99.1	98.4

※：表示量に対する含有率(%)

## 2) 無包装下の安定性

サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、安定な製剤であることが観察された。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3ヵ月)	湿度 (25°C75%RH 6ヵ月)	光 (総照射量 120万lx・hr)
性状	白色のフィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
硬度(kg)	9.9	10.4	9.3	9.3
純度試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
定量試験※	100.0	99.1	99.2	100.1

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

IV. 製剤に関する項目

●サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」<sup>4)</sup>

1) PTP包装品の安定性(加速試験)

サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。  
その結果、定量試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	白色の割線入りフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
純度試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	100.0	99.3

※：表示量に対する含有率(%)

2) 無包装下の安定性

サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。  
その結果、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3ヵ月)	湿度 (25°C75%RH 6ヵ月)	光 (総照射量 120万lx・hr)
性状	白色の割線入りフィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
硬度(kg)	13.7	13.6	11.2	13.7
純度試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
定量試験※	100.0	100.9	101.1	101.0

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。  
※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

5. 調製法及び溶解後の安定性……………  
該当しない
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)……………  
該当資料なし

## 7. 溶出性

本剤は、日本薬局方に定められた規格に適合していることが確認されている。

<溶出挙動における同等性及び類似性>

## ●サルボグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」

【標準製剤との比較】<sup>5, 6)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成13年5月31日 医薬 審発第786号	
試験条件	パドル法	50rpm (pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm (pH1.2)
試験回数	12ベッセル	

## 【結果及び考察】

<50rpm : pH1.2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH5.0>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH6.8>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : 水>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

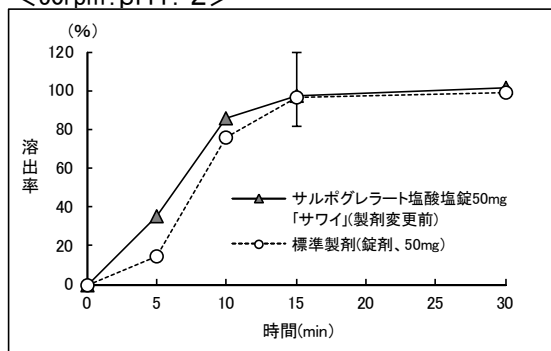
<100rpm : pH1.2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

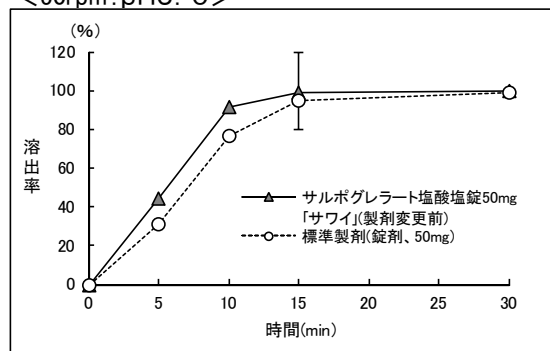
以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

## (溶出曲線)

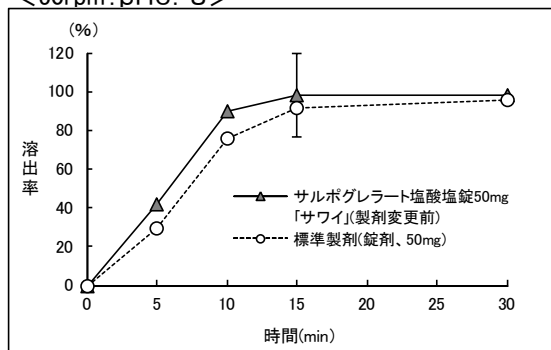
<50rpm : pH1.2>



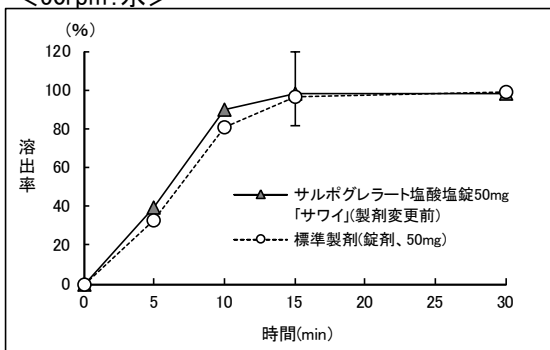
<50rpm : pH5.0>



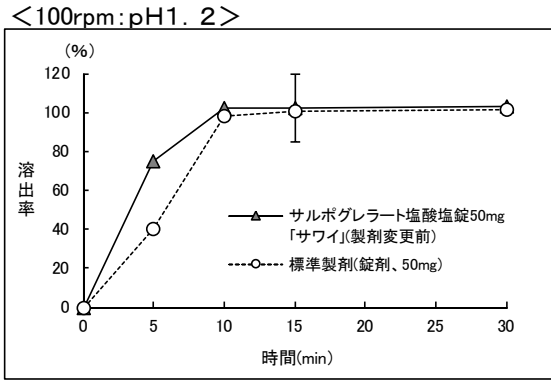
<50rpm : pH6.8>



<50rpm : 水>



IV. 製剤に関する項目



( [ ] : 判定基準の適合範囲)

【製剤変更前後の比較】<sup>6)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」:平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号 「経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインについて」:平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号	
試験条件	パドル法	50rpm (pH1. 2、3. 0、6. 8、水)
試験回数	12 ベッセル	
試験製剤	サルボグレラート塩酸塩錠 50mg「サワイ」(製剤変更後)	
標準製剤	サルボグレラート塩酸塩錠 50mg「サワイ」(製剤変更前)	

【結果及び考察】

<50rpm : pH1. 2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH3. 0>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH6. 8>

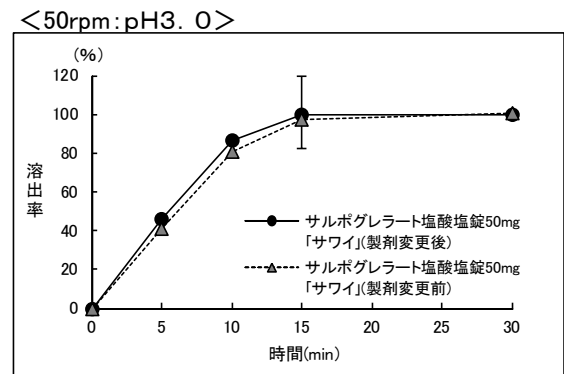
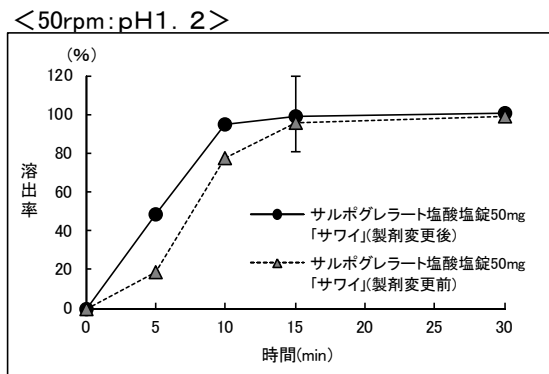
両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

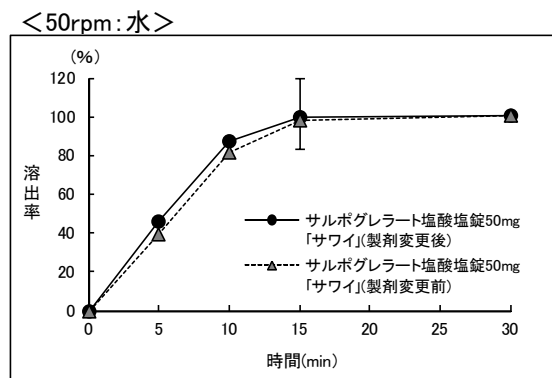
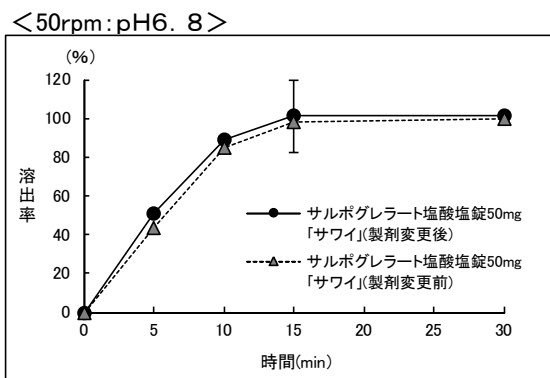
<50rpm : 水>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

以上の結果より、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

(溶出曲線)





( [ ] : 判定基準の適合範囲)

●サルボグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」

【標準製剤との比較】<sup>5, 7)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成13年5月31日 医薬審発第786号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、4.0、6.8、水)、100rpm(pH1.2)
試験回数	12 ベッセル	

【結果及び考察】

<50rpm: pH1. 2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm: pH4. 0>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm: pH6. 8>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm: 水>

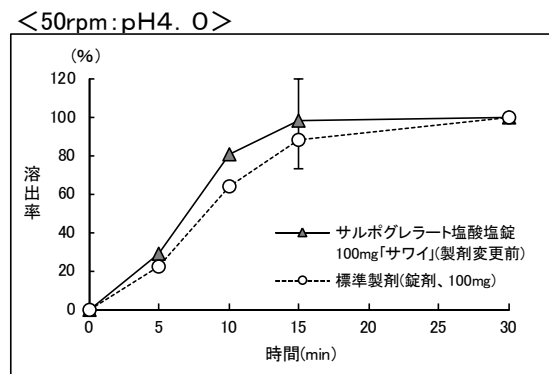
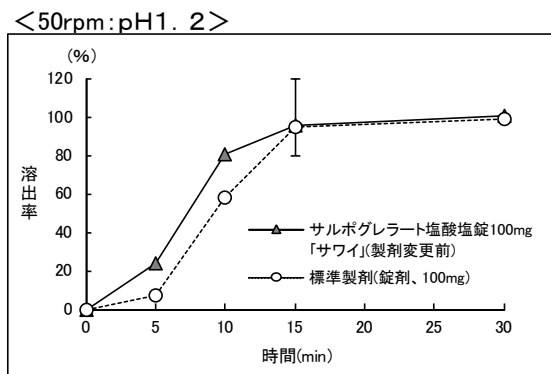
両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<100rpm: pH1. 2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

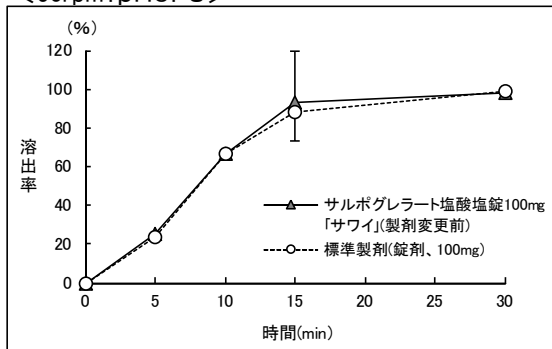
以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

(溶出曲線)

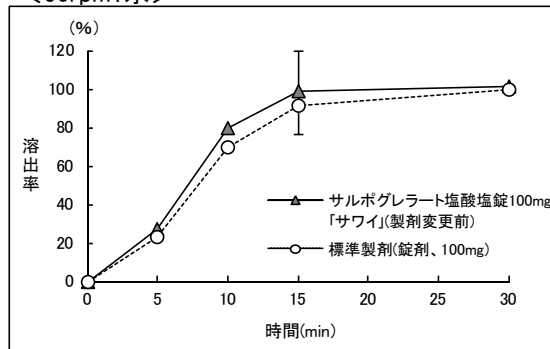


#### IV. 製剤に関する項目

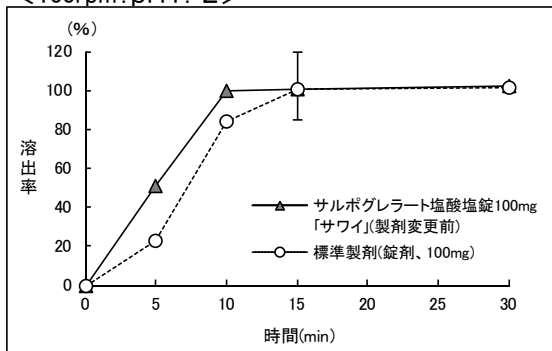
<50rpm: pH6.8>



<50rpm: 水>



<100rpm: pH1.2>



( [ ] : 判定基準の適合範囲)

#### 【製剤変更前後の比較】<sup>7)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号 「経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインについて」：平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号	
試験条件	パドル法	50rpm (pH1.2、4.0、6.8、水)、100rpm (pH1.2)
試験回数	12 ベッセル	
試験製剤	サルボグレラート塩酸塩錠 100mg「サワイ」(製剤変更後)	
標準製剤	サルボグレラート塩酸塩錠 100mg「サワイ」(製剤変更前)	

#### 【結果及び考察】

<50rpm : pH1.2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH4.0>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH6.8>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : 水>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<100rpm : pH1.2>

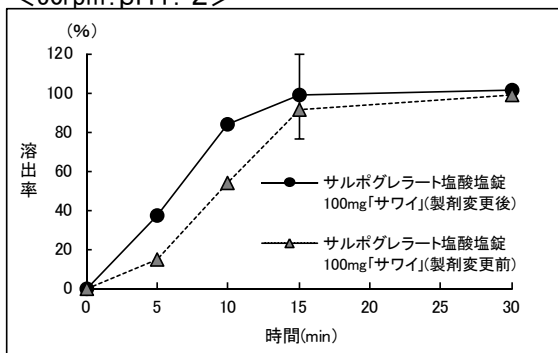
両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

以上の結果より、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

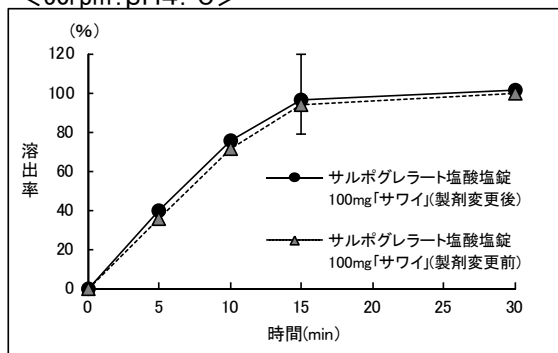


(溶出曲線)

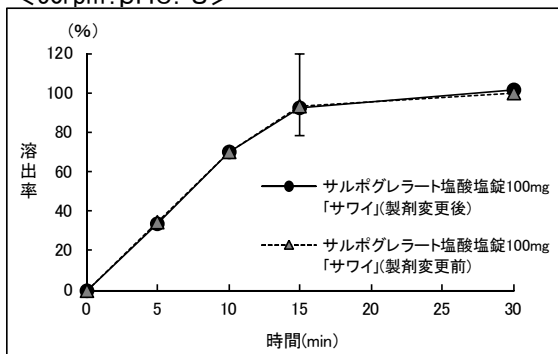
<50rpm:pH1.2>



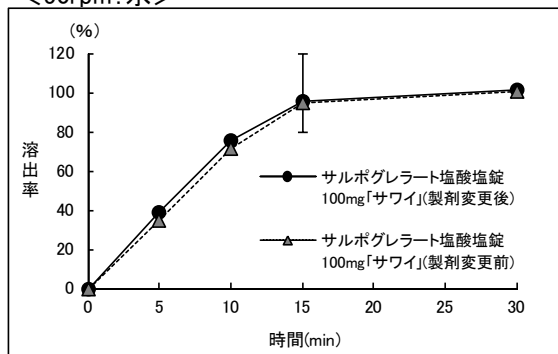
<50rpm:pH4.0>



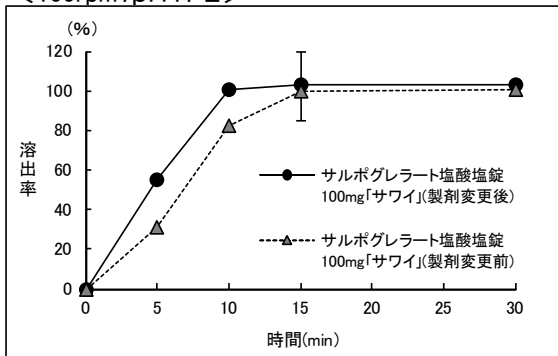
<50rpm:pH6.8>



<50rpm:水>



<100rpm:pH1.2>



( [ ] : 判定基準の適合範囲)

8. 生物学的試験法 .....

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法 .....

日局「サルボグレラート塩酸塩錠」の確認試験に準ずる。(紫外可視吸光度測定法)

10. 製剤中の有効成分の定量法 .....

日局「サルボグレラート塩酸塩錠」の定量法に準ずる。(液体クロマトグラフィー)

IV. 製剤に関する項目

11. 力価 .....

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物 .....

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報 .....

該当資料なし

14. その他 .....

該当資料なし

---

## V. 治療に関する項目

---

1. 効能又は効果……………  
慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛および冷感等の虚血性諸症状の改善
  
2. 用法及び用量……………  
サルポグレラート塩酸塩として、通常成人1回100mgを1日3回食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
  
3. 臨床成績……………
  - 1) 臨床データパッケージ  
該当しない
  
  - 2) 臨床効果  
該当資料なし
  
  - 3) 臨床薬理試験  
該当資料なし
  
  - 4) 探索的試験  
該当資料なし
  
  - 5) 検証的試験
    - (1) 無作為化並行用量反応試験  
該当資料なし
  
    - (2) 比較試験  
該当資料なし
  
    - (3) 安全性試験  
該当資料なし
  
    - (4) 患者・病態別試験  
該当資料なし
  
  - 6) 治療の使用
    - (1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)  
該当資料なし

V. 治療に関する項目

- (2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要  
該当しない

---

## VI. 薬効薬理に関する項目

---

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群……………  
チクロピジン塩酸塩、クロピドグレル硫酸塩、シロスタゾール、イコサペント酸エチル、  
リマプロスト アルファデクス等
  
2. 薬理作用……………
  - 1) 作用部位・作用機序  
血小板及び血管平滑筋の5-HT<sub>2</sub>受容体に対する特異的な拮抗作用により、血小板凝集抑制作用  
及び血管収縮抑制作用を示して末梢循環障害を改善する。
  
  - 2) 薬効を裏付ける試験成績  
該当資料なし
  
  - 3) 作用発現時間・持続時間  
該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

サルポグレラート塩酸塩錠の薬物動態について以下のとおり報告されている。

## 1. 血中濃度の推移・測定法

## 1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

## 2) 最高血中濃度到達時間

VII. -1. -3) 参照

## 3) 臨床試験で確認された血中濃度

<生物学的同等性試験>

## ●サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」

【標準製剤との比較】<sup>5, 8)</sup>

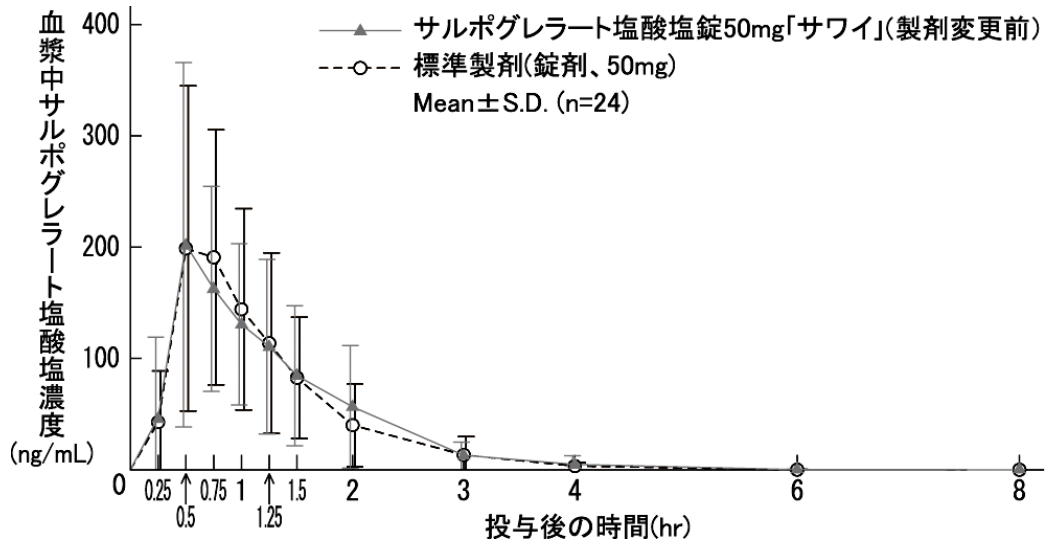
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.25、0.5、0.75、1、1.25、1.5、2、3、4、6、8 hr
休薬期間	1週間
測定方法	LC/MS法

サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」(製剤変更前)と標準製剤を健康成人男子にそれぞれ1錠(サルポグレラート塩酸塩として50mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中サルポグレラート塩酸塩濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)	AUC <sub>0-8hr</sub> (ng·hr/mL)
サルポグレラート塩酸塩錠 50mg「サワイ」 (製剤変更前)	253±151	0.8±0.5	0.6±0.2	258±109
標準製剤(錠剤、50mg)	273±136	0.8±0.4	0.6±0.2	252±95

(Mean±S.D.)



【製剤変更前後の比較】<sup>8)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号 「経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインについて」：平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号
採血時点	0、0.125、0.25、0.5、0.75、1、1.25、1.5、1.75、2、3、4、6 hr
休薬期間	1週間
測定方法	LC/MS法
試験製剤	サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」(製剤変更後)
標準製剤	サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」(製剤変更前)

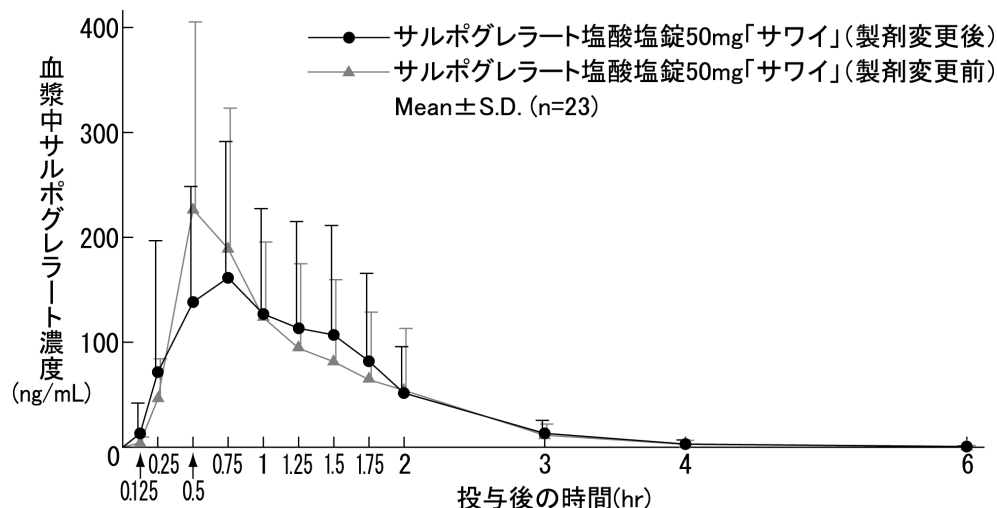
サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」(製剤変更後)とサルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」(製剤変更前)を健康成人男子にそれぞれ1錠(サルポグレラート塩酸塩として50mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中サルポグレラート濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)	AUC <sub>0-6hr</sub> (ng・hr/mL)
サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」 (製剤変更後)	270 ± 141	0.9 ± 0.5	0.6 ± 0.2	248 ± 116
サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」 (製剤変更前)	287 ± 171	0.9 ± 0.5	0.6 ± 0.2	254 ± 116

(Mean ± S.D.)

VII. 薬物動態に関する項目



●サルピグレレート塩酸塩錠100mg「サワイ」

【標準製剤との比較】<sup>5, 9)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.25、0.5、0.75、1、1.25、1.5、2、3、4、6、8 hr
休薬期間	1週間
測定方法	LC/MS法

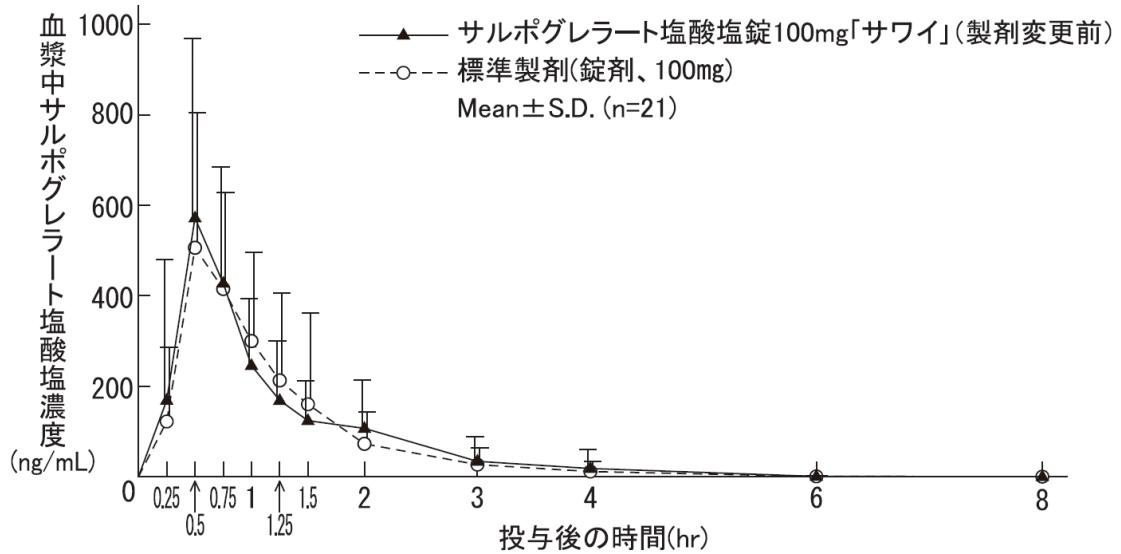
サルピグレレート塩酸塩錠100mg「サワイ」(製剤変更前)と標準製剤を健康成人男子にそれぞれ1錠(サルピグレレート塩酸塩として100mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中サルピグレレート塩酸塩濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)	AUC <sub>0-8hr</sub> (ng・hr/mL)
サルピグレレート塩酸塩錠 100mg「サワイ」 (製剤変更前)	682 ± 341	0.9 ± 0.7	0.6 ± 0.2	584 ± 244
標準製剤(錠剤、100mg)	621 ± 248	0.7 ± 0.3	0.7 ± 0.2	548 ± 196

(Mean ± S.D.)





【製剤変更前後の比較】<sup>9)</sup>

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号 「経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインについて」：平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号
採血時点	0、0.125、0.25、0.5、0.75、1、1.25、1.5、2、3、4、6 hr
休薬期間	1週間
測定方法	LC/MS法
試験製剤	サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」(製剤変更後)
標準製剤	サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」(製剤変更前)

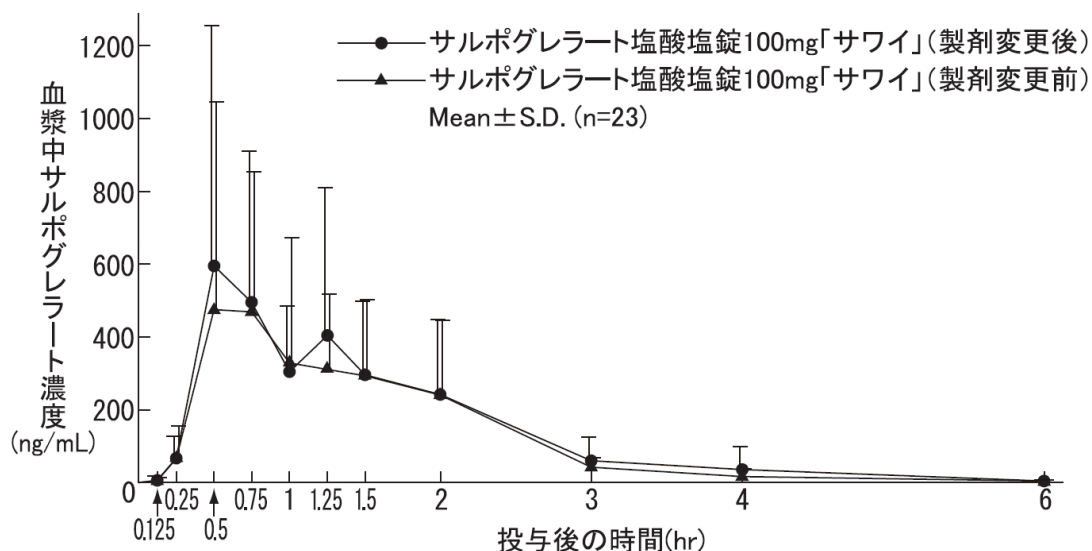
サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」(製剤変更後)とサルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」(製剤変更前)を健康成人男子にそれぞれ1錠(サルポグレラート塩酸塩として100mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中サルポグレラート塩酸塩濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)	AUC <sub>0-6hr</sub> (ng・hr/mL)
サルポグレラート塩酸塩錠 100mg「サワイ」 (製剤変更後)	962 ± 591	1.2 ± 0.7	0.8 ± 0.2	870 ± 307
サルポグレラート塩酸塩錠 100mg「サワイ」 (製剤変更前)	852 ± 489	1.2 ± 0.6	0.8 ± 0.2	772 ± 232

(Mean ± S.D.)

VII. 薬物動態に関する項目



血漿中濃度ならびにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

4) 中毒域

該当資料なし

5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ.....

1) 解析方法

該当資料なし

2) 吸収速度定数

該当資料なし

3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

4) 消失速度定数

●サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」を健康成人男子に1錠(サルポグレラート塩酸塩として50mg)空腹時単回経口投与した場合の消失速度定数<sup>8)</sup>

$$1.323 \pm 0.348 \text{hr}^{-1}$$

●サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」を健康成人男子に1錠(サルポグレラート塩酸塩として100mg)空腹時単回経口投与した場合の消失速度定数<sup>9)</sup>

$$0.984 \pm 0.367 \text{hr}^{-1}$$

5) クリアランス

該当資料なし

6) 分布容積

該当資料なし

7) 血漿蛋白結合率

95%以上<sup>2)</sup>

3. 吸収 .....

吸収率は50%以上と推測される。<sup>2)</sup>

4. 分布 .....

1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

2) 血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

3) 乳汁への移行性

<参考>動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。

4) 髄液への移行性

該当資料なし

5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝 .....

1) 代謝部位及び代謝経路

肝で脱エステル化され、主代謝物M1(活性体)となり、その後水酸化、脱メチル化される。<sup>2)</sup>

2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

CYP1A2、CYP2B6、CYP2C9、CYP2C19、CYP2D6、CYP3A4<sup>10)</sup>

3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

4) 代謝物の活性の有無及び比率

M1の活性は未変化体の約10倍<sup>2)</sup>

VII. 薬物動態に関する項目

5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄 .....

1) 排泄部位及び経路

健常成人に100mg単回経口投与したとき、24時間までに尿中に44.5%、糞中に4.2%排泄され、未変化体は認められなかった。<sup>10)</sup>

2) 排泄率

VII. -6. -1) 参照

3) 排泄速度

VII. -6. -1) 参照

7. トランスポーターに関する情報 .....

該当資料なし

8. 透析等による除去率 .....

透析で除去されないと考えられる。<sup>2)</sup>

---

## VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

---

1. 警告内容とその理由……………  
該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)……………

**【禁忌】(次の患者には投与しないこと)**

- 1) 出血している患者(血友病、毛細血管脆弱症、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、硝子体出血等)[出血を更に増強する可能性がある。]
- 2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由……………  
該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由……………  
該当しない

5. 慎重投与内容とその理由……………

**慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**

- 1) 月経期間中の患者[出血を増強するおそれがある。]
- 2) 出血傾向並びにその素因のある患者[出血傾向を増強するおそれがある。]
- 3) 抗凝固剤(ワルファリン等)あるいは血小板凝集抑制作用を有する薬剤(アスピリン、チクロピジン塩酸塩、シロスタゾール等)を投与中の患者[出血傾向を増強するおそれがある。]
- 4) 重篤な腎障害のある患者[排泄に影響するおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法……………

**重要な基本的注意**

本剤投与中は定期的に血液検査を行うことが望ましい。

7. 相互作用……………

1) 併用禁忌とその理由

該当しない

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

2) 併用注意とその理由

併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝固剤 ワルファリン等	出血傾向を増強するおそれがある。	相互に作用を増強する。
血小板凝集抑制作用を有する薬剤 アスピリン チクロピジン塩酸塩 シロスタゾール 等		

8. 副作用

1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

2) 重大な副作用と初期症状

1) 重大な副作用(頻度不明)

- (1) 脳出血、消化管出血：脳出血、吐血や下血等の消化管出血があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2) 血小板減少：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (3) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 $\gamma$ -GTP、LDHの上昇等を伴う肝機能障害や黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (4) 無顆粒球症：無顆粒球症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) その他の副作用

2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、丘疹、そう痒、紅斑、蕁麻疹
肝臓 <sup>注2)</sup>	肝機能障害(ビリルビン、AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 $\gamma$ -GTP、LDHの上昇等)
出血傾向 <sup>注2)</sup>	出血(鼻出血、皮下出血等)
消化器	嘔気、胸やけ、腹痛、便秘、異物感(食道)、食欲不振、腹部膨満感、下痢、嘔吐、口内炎
循環器	心悸亢進、息切れ、胸痛、ほてり
精神神経系	頭痛、眠気、味覚異常、めまい
腎臓	蛋白尿、尿潜血、BUN上昇、クレアチニン上昇
血液	貧血、血小板減少、白血球減少

	頻度不明
そ の 他	血清中性脂肪の上昇、血清コレステロールの上昇、血清アルブミンの減少、尿糖、尿沈渣、体重の増加、浮腫、倦怠感、血清カルシウム <sup>注1)</sup> の減少、しびれ感、発熱、咽頭痛、咽頭不快感、咽頭灼熱感

注1)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。  
注2)観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

副作用	
2) その他の副作用	
	頻度不明
過 敏 症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、丘疹、そう痒、紅斑、蕁麻疹

注1)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

高齢者では低用量(例えば150mg/日)より投与を開始するなど、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。[一般に高齢者では腎、肝等の生理機能が低下していることが多く、高い血中濃度が持続するおそれがある。]

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[動物実験(ラット)で胚胎児死亡率増加及び新生児生存率低下が報告されている。]
- 2) 授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

11. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

13. 過量投与 .....  
    該当資料なし

14. 適用上の注意 .....

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。 (PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)
--

15. その他の注意.....  
    該当しない

16. その他.....



---

## IX. 非臨床試験に関する項目

---

1. 薬理試験 .....
  - 1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)
  
  - 2) 副次的薬理試験  
該当資料なし
  
  - 3) 安全性薬理試験  
該当資料なし
  
  - 4) その他の薬理試験  
該当資料なし
  
2. 毒性試験 .....
  - 1) 単回投与毒性試験  
該当資料なし
  
  - 2) 反復投与毒性試験  
該当資料なし
  
  - 3) 生殖発生毒性試験  
VIII. -10. 参照
  
  - 4) その他の特殊毒性  
該当資料なし

---

## X. 管理的事項に関する項目

---

1. 規制区分 .....

規制区分	
製剤	該当しない
有効成分	劇薬

2. 有効期間又は使用期限 .....

使用期限：3年

3. 貯法・保存条件 .....

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点 .....

1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

2) 薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

くすりのしおり：有り

Ⅷ. -14. 参照

3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等 .....

該当しない

6. 包装 .....

●サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」

PTP：100錠(10錠×10)

●サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」

PTP：100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)

7. 容器の材質 .....

PTP：[PTPシート]ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔、

[ピロー]アルミラミネートフィルム

8. 同一成分・同効薬 .....  
同一成分：アンプラーグ錠50mg/錠100mg/細粒10%  
同効薬：チクロピジン塩酸塩、シロスタゾール、イコサペント酸エチル、リマプロスト アルファデクス等
9. 国際誕生年月日 .....  
該当しない
10. 製造販売承認年月日及び承認番号 .....  
●サルポグレラート塩酸塩錠50mg「サワイ」  
製造販売承認年月日：2009年7月13日、承認番号：22100AMX02132000  
●サルポグレラート塩酸塩錠100mg「サワイ」  
製造販売承認年月日：2009年7月13日、承認番号：22100AMX02133000
11. 薬価基準収載年月日 .....  
2009年11月13日
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容 .....  
該当しない
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容 .....  
該当しない
14. 再審査期間 .....  
該当しない
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 .....  
本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

X. 管理的事項に関する項目

16. 各種コード .....

品名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
サルポグレラート塩酸塩 錠50mg「サワイ」	119609201	3399006F1182	621960901
サルポグレラート塩酸塩 錠100mg「サワイ」	119616001	3399006F2189	621961601

17. 保険給付上の注意 .....

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

---

## XI . 文献

---

1. 引用文献 .....
- 1) 日本公定書協会編, 医療用医薬品 品質情報集, No. 28, 薬事日報社, 2007, p. 175.
  - 2) 平田純生他編, 透析患者への投薬ガイドブック 慢性腎臓病(CKD)の薬物療法, 改訂2版, じほう, 2009, p. 462-463.
  - 3)～4) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験]
  - 5) 陶易王, 診療と新薬, 46(9), 873(2009).
  - 6)～7) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験]
  - 8)～9) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験]
  - 10) 日本薬局方解説書編集委員会編, 第十七改正 日本薬局方解説書, 廣川書店, 2016, C-1962-C-1966.
2. その他の参考文献 .....

---

## XII. 参考資料

---

1. 主な外国での発売状況 .....

2. 海外における臨床支援情報 .....

該当資料なし

---

## XIII. 備考

---

その他の関連資料 .....



